

第2次 赤崎地区小地域福祉活動計画（案）

平成28年度～平成32年度



思いやりの気持ち AC ジャパン

“こころ” は、だれにも見えないけれど

“こころづかい” は、見える

“思い” は、見えないけれど

“思いやり” は、だれにでも見える

宮澤章二さんの詩「行為の意味」

おばあさん 『ありがとう』

あたたかいこころも、やさしい思いも

おこないになって、はじめて見える。

その気持ちをカタチに。

— AC ジャパン —

赤崎地区社会福祉協議会

1. 第2次 赤崎地区小地域福祉活動計画策定にあたっての基本的考え方

第1次活動計画策定時以上に今後の地域福祉活動は、少子化に加え超高齢社会を前提とした取組みとしなければいけない。従って、これからの地域福祉活動計画を策定する際には、第1次活動計画の時と同様に、自助・共助の分野で地域住民同士が“支えあい”“助け合える”仕組みづくりを念頭に置いた事業計画を構築する必要がある。

地区社協としての年度事業活動内容も、『第2次 倉敷市地域福祉活動計画』に基づき、更なる福祉活動へのシフトが求められる為、楽しく安心して暮せる町づくりを目指すものにしたい。

最終的には、継続性を持たせるため、第1次活動計画と同様、住民一人ひとりが笑顔で挨拶し合ったり、困っている人が居れば、“見て見ぬ振りをする事なく”声を掛け合ったり、お互いに助け合うことが日常茶飯事に出来ている町、また、『何をして貰うかではなく、何をしてあげられるか』精神を一人でも多くの人が思える町づくりを目指す福祉活動計画とする。

《第2次活動計画策定に際しての背景》

● 第2次倉敷市地域福祉活動計画で取り上げられた基本的考え方

(倉敷市社協 発行 『第2次倉敷市地域福祉活動計画』より抜粋)

(1) 基本理念

だれもが安心して地域で暮らし続けていくためには、住民同士がふれあい、お互いに心と心を通わせあい、支えあっていくことのできる豊かな人間関係を地域社会の中に築いていく必要があります。

そこで、第2次の計画では、第1次計画で進められた基盤整備をさらに充実させることを目指して、第1次計画の基本理念を踏襲することとします。

「和気あいあいの倉敷まちづくり」

～みんなで話しあい、学びあい、支えあい～

(2) 基本目標

<1> 互いに助けあい、支えあう地域づくり

* 地域において交流や福祉意識の高揚につながる機会を増やすことで、人と人とのつながりを強め、住民同士の助けあいや支えあいを促進します。

重点目標1 地域における絆の強化

重点目標2 地区社会福祉協議会活動の促進

重点目標3 ボランティア・NPO法人等の活動の促進

重点目標4 地域福祉の意識の醸成

【実施事業項目】

- ① 三世代交流事業
- ② サロン活動推進事業
- ③ 小地域ケア会議の開催
- ④ 地区社協の設置
- ⑤ 地区社協広報活動の充実
- ⑥ 小地域福祉活動計画の策定
- ⑦ 地区社協合同連絡会の開催
- ⑧ ボランティアコーディネート機能の充実
- ⑨ ボランティア活動者の養成
- ⑩ 施設・団体等の連絡会の開催
- ⑪ ボランティア連絡協議会の充実
- ⑫ 福祉講演会の開催
- ⑬ 出前福祉講座の開催
- ⑭ 教職員に対する福祉講座の開催

〈2〉 誰もが安心して福祉サービスを受けられる地域づくり

* 様々な福祉情報の提供体制を充実し、支援が必要な時に的確な福祉サービスにつながるよう相談体制の整備に取り組みます。

重点目標5 情報提供・相談支援体制の充実

重点目標6 多様な福祉サービスの基盤整備

【実施事業項目】

- ⑮ 倉敷市社協ホームページの充実
- ⑯ 心配ごと相談所の運営
- ⑰ 専門職懇談会・巡回相談会
- ⑱ 生活支援サービスの充実
- ⑲ 生活困窮者支援の取り組み
- ⑳ 社会福祉法人の公益活動の支援

〈3〉 地域で安心して暮らすための基盤づくり

* 安心・安全な地域を目指して地域住民、関係機関との連携を図り、地域の防犯、防災力を高めながら犯罪が起りにくい環境づくりや災害に強い地域づくりを推進します。

重点目標7 支援を必要とする人の人権の確保

重点目標8 地域防犯・防災力の強化

【実施事業項目】

- ㉑ 倉敷市社協法人後見の受任
- ㉒ 市民後見人養成講座の実施
- ㉓ 地区社協防犯・防災活動の推進
- ㉔ 災害ボランティアセンター機能の強化

2. 第2次 赤崎地区小地域福祉活動の取り組み

《第2次活動計画策定までのステップ概要》

ワークショップ 1 参加者:31名 平成27年6月5日

- ① “地域で困っていること”、“地域で気になること”等の課題を付箋に出来るだけ多く書き出す。
- ② 似たような課題をグループ分けし、それぞれにタイトルを付ける。

課題付箋枚数：142枚

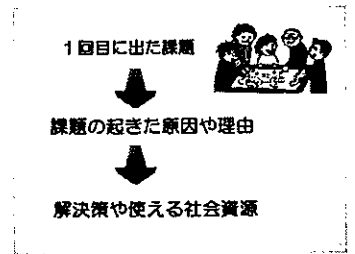
メンバーの所属団体:自治会・町内会会長、民生委員、市社協児島事務所、赤崎地区社協、



養育委員、婦人会、交通安全母の会、栄養改善協議会、老人会、児島障がい者支援センター、赤崎高齢者支援センター、児島保健推進室、子ども家庭生活サポートセンター、サロン関係者 etc

ワークショップ 2 参加者:26名 平成27年8月7日

- ① “独居高齢者の問題”、“環境の問題”のような大きなグループに分かれているものを似たような課題の小グループに分ける。
- ② 課題ごとにその原因を付箋に書く。また、その対策も別の付箋に書き張り付ける。



ワークショップ 3 参加者:33名 平成27年10月2日

- ① 前回のワークで出た解決策を実施計画書のフォームに沿って記入する。



実施計画書作成 身延、中野①

DCS (課題)	障がい者福祉の向上
なぜ(問題、課題)	福祉施設が少なく、生活が困難な状態にある。
なぜ(原因、理由)	福祉施設が少ない。
なぜ(対策、解決策)	福祉施設を増やす。
なぜ(社会資源)	福祉施設、福祉サービス
なぜ(対策、解決策)	福祉施設を増やす。
なぜ(社会資源)	福祉施設、福祉サービス

(1) 基本理念

第1次活動計画に引続き、住人同士が“思いやりの気持ち”を持って日常の暮らしが出来る“まちづくり”を目指す。

基本理念としては、倉敷市が掲げる“基本理念”の小地域版として、

“和気あいあいの赤崎まちづくり”

— みんなで話しあい、学びあい、支えあい —

とする。

(2) 基本目標

第2次倉敷市地域福祉活動計画の主旨に基づき、赤崎地区社協版としてまとめる

<1> 互いに助けあい、支えあう地域づくり

重点目標1 地域における絆の強化

重点目標2 地区社会福祉協議会活動の促進

重点目標3 ボランティア・NPO法人等の活動の促進

重点目標4 地域福祉の意識の醸成

【実施事業項目】

- ① 三世代交流事業
- ② サロン活動推進事業
- ③ 子育て支援事業
- ④ 地区社協広報活動の充実
- ⑤ 小地域福祉活動計画の策定
- ⑥ 地区社協合同連絡会に参加
- ⑦ 福祉講演会の開催
- ⑧ 出前福祉講座の開催

<2> 誰もが安心して福祉サービスを受けられる地域づくり

重点目標5 情報提供・相談支援体制の充実

重点目標6 多様な福祉サービスの基盤整備

【実施事業項目】

- ⑨ 生活支援サービスの充実

<3> 地域で安心して暮らすための基盤づくり

重点目標7 支援を必要とする人の人権の確保

重点目標8 地域防犯・防災力の強化

- ⑩ 地区社協防犯・防災活動の推進

赤崎地区小地域福祉活動計画 体系図 (その1/3)

【現状把握とその課題】

【課題の原因】

近所づきあいの希薄さ	<ul style="list-style-type: none"> ・市外からの転入の人がつながり求めている ・地域で子どもが生まれても情報がないのでわからない ・井戸端会議の減少 ・地区の連帯感がとれない ・コーポ、マンションの生活状況がわかりにくい ・いろんなイベントをしてもいつも参加者は同じ ・(参加してほしい人には届かない) ・行事への参加者がなかなか集まらない ・高齢者が話し合える機会がない
------------	--



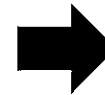
<ul style="list-style-type: none"> ・人との繋がりが薄い ・共通の話題が少ない ・一緒に何かをやり遂げようとするのが少ない ・子ども会参加メンバーが減少している

役員成り手不足	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の役員をやって頂ける方が少ない ・地域の役をしている人の後継者がなかなか見つからない ・防犯パトロール隊員のなり手が少ない ・防犯パトロール隊員が超高齢化している (若い人にして欲しい)
---------	--



<ul style="list-style-type: none"> ・自己中心的な人や協調性のない人が多い ・役員としての責任を負うことを嫌がる人が多い

少子化・児童問題	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚願望が薄い若者が増えた ・核家族化の急激に進行している ・気軽に子育ての相談をする場が少ない ・不登校の子の居場所がない (その家族を支援してくれるところがない) ・ひとり親家族の長期的な支援がない
----------	--



<ul style="list-style-type: none"> ・世話をしてくれる人がいない(お節介さんがいない) ・地域内に子育て相談が出来る場がない

認知症の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症・はいかい家族の方への知らせ方が分からない、また知らせていいものかどうか迷う ・高齢者介護保険サービスが不十分 ・高齢者虐待ケースが多い(80歳の母親、50代の息子)、(老老介護)
--------	--



<ul style="list-style-type: none"> ・認知症家族への対応の仕方が分からない

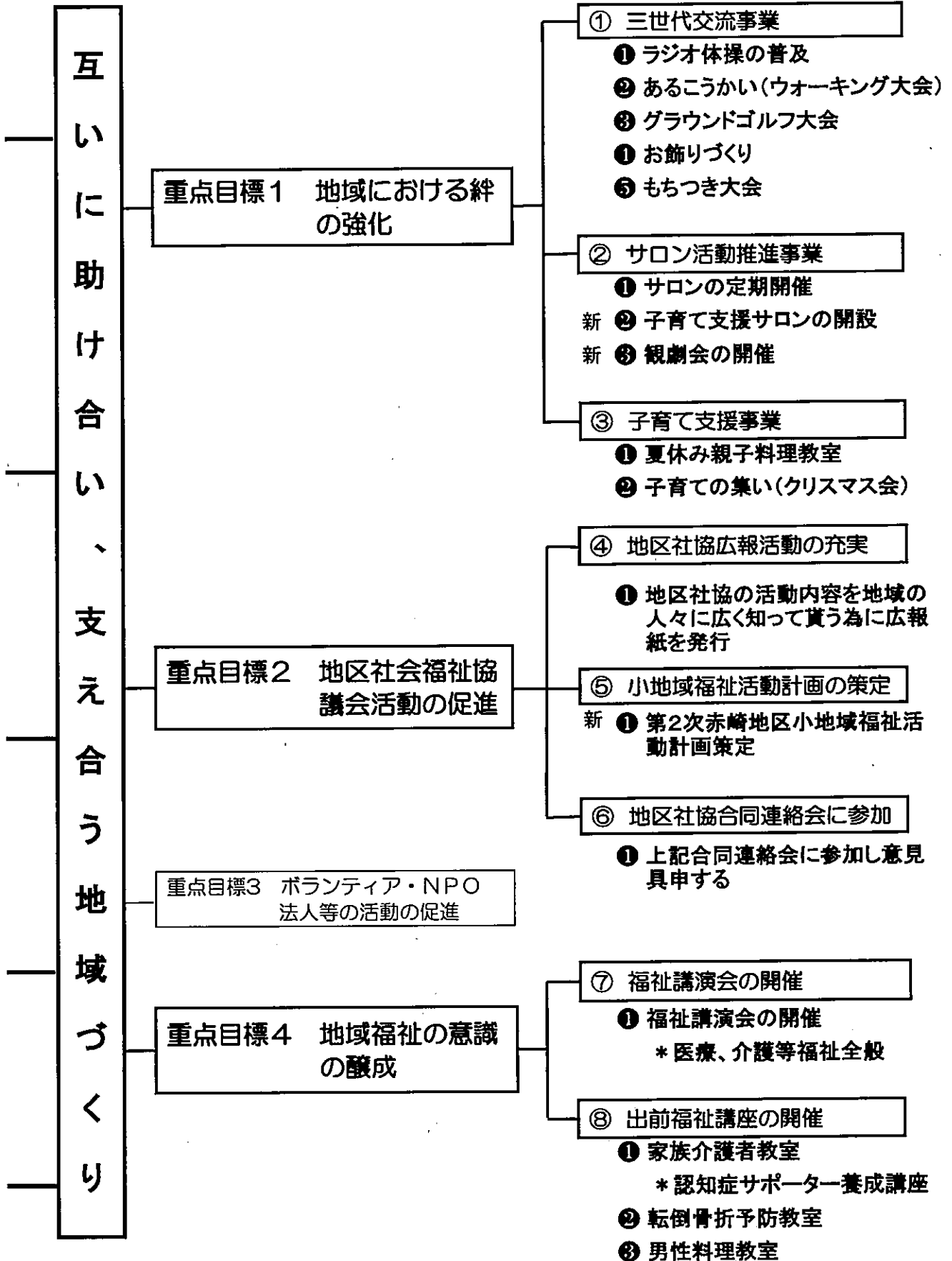
高齢者健康管理の	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の転倒骨折者が多い
----------	---



<ul style="list-style-type: none"> ・転倒回避のとっさの動作が出来ない

【取組み目標】

【事業項目】



赤崎地区小地域福祉活動計画 体系図 (その2/3)

【現状把握とその課題】

【課題の原因】

- 移動手段・買い物問題
- ・病院への行き帰り(送迎)が大変
 - ・高齢者の夜の外出が難しい
 - ・買い物難民状態になっている
 - ・自宅の近くに商店がまったくない(生協を利用している人もいる)
 - ・出掛けようとしてもバス便の本数が少ない
 - ・乗合タクシーは有るが回数が少ない

高齢者や身体障がい者で移動手段に困っている人が多い

- 独居高齢者、高齢者世帯の孤立化
- ・近所の人とあまり話ができない男性が孤立していて寂しそう
 - ・高齢者世帯の庭や家周りの雑草が生え放題になっていて管理に困っている
 - ・一人暮らしの高齢者宅に電話しても出ない。訪ねて行っても出ない
 - ・昼間独居高齢者が増えている
 - ・ごみ屋敷で身寄りがいない人がいる
 - ・1人暮らしで孤独感にさいなまれている

個人情報の保護が過度に重視されている為に世帯把握が出来ず効果的な“みまもり”が出来ていない

- 消費者被害
- ・まだまだオレオレ詐欺や振り込め詐欺に引っ掛かっている高齢者がいる
 - ・悪徳商売をしている人が近所まで来ている

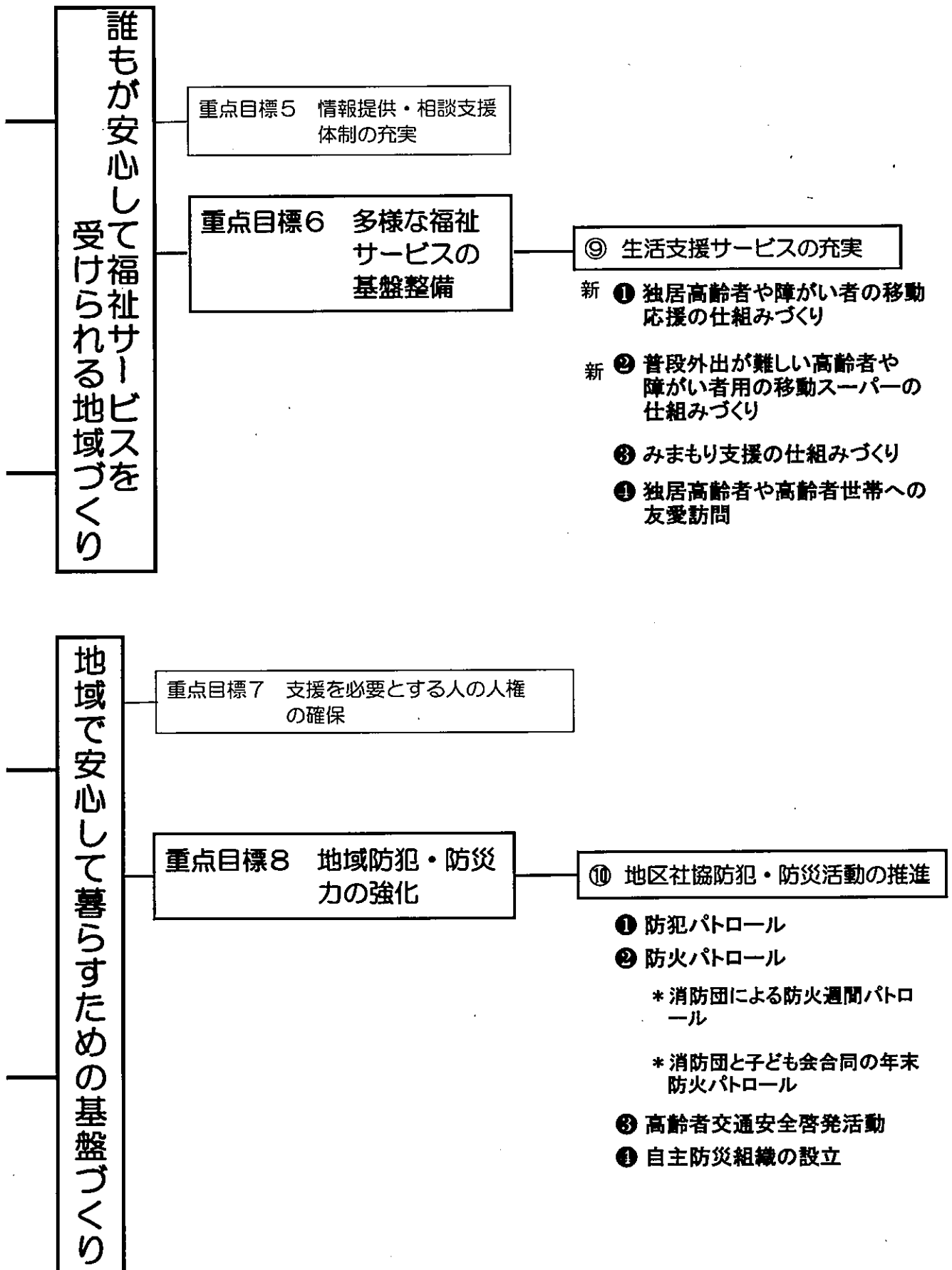
自分は大丈夫だと過信している
相談する家族が傍にいない為相手の言いなりになっている

- モラル
- ・見て見ぬふりをする人が多い
 - ・自助、共助、公助と言われるが、公助ばかり求める人が多い
 - ・高齢者の交通マナーがなっていない
 - ・下校時の子どもでマナーの悪い子がいる
 - ・菰池2丁目集会所横広場でボール遊びをしている時に、道路へ飛び出す子どもがいる
 - ・小学生の下校時に道草をしながらイタズラをする子がいる
 - ・飼い犬の散歩中にフンを川や溝に流す人がいる

自己中心で勝手な振る舞いをする

【取組み目標】

【事業項目】



赤崎地区小地域福祉活動計画 体系図 (その3/3)

【現状把握とその課題】

【課題の原因】

空家問題

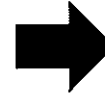
- ・空家で犬が子どもを産んでいた
- ・空家や空き地が増えている
- ・空家の管理ができていない
- ・空家に雑木が増えて環境を悪化させている



- ・跡取が帰ってこない
- ・解体・新地化に金がかかる
- ・路地に囲まれていて車が入れないので改築をあきらめている

野良犬猫問題

- ・野良犬が増えて危険である
- ・野良猫が庭にフンをしていく
- ・野良猫の多い地域ではどうしていいのかわからない



- ・野良犬、野良猫にエサをやる人がいる
- ・空家が増えた為野良犬猫の住処が増えた

ゴミ問題

- ・夜中にゴミを勝手にゴミステーションに捨てる人がいる
- ・道路にポイ捨てゴミが散乱して汚い
- ・ゴミ収集日以外の日にゴミが捨てられている



- ・常識に欠けている人がいる

道路や公共の場の環境等の問題

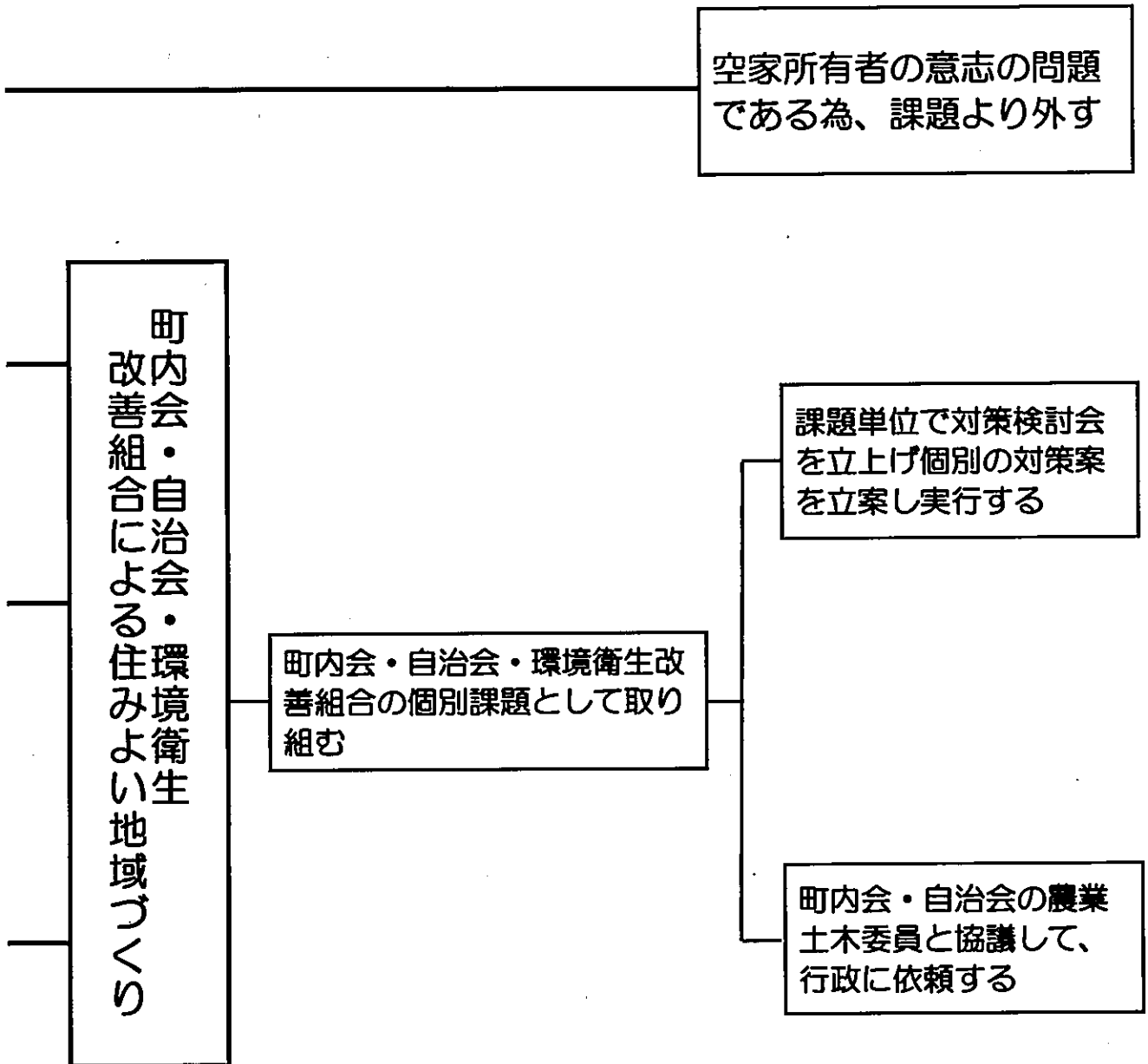
- ・公共施設の修理を要求しても、なかなか実施されない
- ・大雨が降ると道路に水があふれる(家がつかる)
- ・道路が狭く見通しが悪い
- ・狭い道路への侵入車の速度が速い為危険である
- ・放置自転車がある
- ・側溝のグレーチングメタルが変形している為車が通るたびに大きな音がする
- ・アマチュア無線の電波障害でインターネットをうまく受信できない



- ・公共施設や道路の管理・補修等が適宜に行われていない
- ・車や自転車の所有者のモラル欠如
- ・ご近所同士の気配り欠如

【取 組 み 目 標】

【事 業 項 目】



第2次（平成28年度～平成32年度）赤崎地区社協小地域福祉活動計画書（案）

なにを（課題）	【継続】学童など外でできるスポーツは何か？ 地域や世代間の交流が少ない。
なぜ（原因、理由）	若い世代はスマホゲームなどに没頭していて地域の人との交流が薄い
活動タイトル	事業項目①-①ラジオ体操の普及、②グラウンドゴルフ大会 *スポーツやラジオ体操をする
誰のために（対象）	地域住民全体
誰が（活動主体）	赤崎地区社協（地域住民自ら）
どのように ・活動方法	三世代交流活動としてラジオ体操の普及とグラウンドゴルフ大会を行う
・活動頻度	*ラジオ体操；適宜 *グラウンドゴルフ大会；1回/年
・場 所	*ラジオ体操；任意の場所、どこでも *グラウンドゴルフ大会；阿津元浜グラウンド
・費 用	参加費用；無料
・決めごと	機会あるごとに声掛けをする
・留意点	参加者全員ボランティア行事保険加入

年度 活動名	28年度 (1年目)	29年度 (2年目)	30年度 (3年目)	31年度 (4年目)	32年度 (5年目)
*ラジオ体操	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
*グラウンド ゴルフ大会	10月～11月	10月～11月	10月～11月	10月～11月	10月～11月

第2次（平成28年度～平成32年度）赤崎地区社協小地域福祉活動計画書（案）

なにを（課題）	【新規】気軽に子育ての相談をする場がない
なぜ（原因、理由）	世話をしてくれる人がいない（お節介屋さんがいない）
活動タイトル	事業項目②-② 子育て支援サロンの開設
誰のために（対象）	子育てに悩んでいるお母さん（お父さん）
誰が（活動主体）	赤崎地区社協、小地域ケア会議(赤崎竜王ふくし会)、子育て支援センター、愛育委員会、各種子育て支援グループ
どのように ・活動方法	平成28年度は地域内での子育てに関する現状調査し、実際のニーズがどれ位なのかを把握する。併せて、小委員会を立上げ活動計画を具体化する。
・活動頻度	平成28年度で活動計画を具体化し、活動頻度を定める。
・場 所	小委員会での打合せ場所は、活動内容に合わせて町内会・自治会の集会場とする。
・費 用	活動計画が明確になった時点で決める。
・決めごと	打合せで決定したことは着実に実行し、その結果をしっかりと評価し次の取組みに生かす。
・留意点	子育て支援の内容が被支援者のニーズに沿っているかどうかを常に意識した活動とする。

年度 活動名	28年度 (1年目)	29年度 (2年目)	30年度 (3年目)	31年度 (4年目)	32年度 (5年目)
子育て支援サロンの開設	実態調査 開設準備	開 設 支援活動	支援活動	支援活動	支援活動

第2次（平成28年度～平成32年度）赤崎地区社協小地域福祉活動計画書（案）

なにを（課題）	【新規】行事への参加者がなかなか集まらない
なぜ（原因、理由）	一緒に何かをやり遂げようとするのが少ない
活動タイトル	事業項目②-③ 観劇会の開催
誰のために（対象）	家にこもりがちな独居高齢者や身体障がい者
誰が（活動主体）	赤崎地区社協、小地域ケア会議（赤崎竜王ふくし会）、赤崎地区サロン会
どのように ・活動方法	サロン会での希望を募り多くの人が見たい観劇を勧誘する。
・活動頻度	当面は年1回を目途とする。
・場 所	児島公民館赤崎分館、各町内会・自治会の集会場
・費 用	参加費は有料（200円～500円程度）とし、不足分は地区社協経費とし計上する。
・決めごと	赤崎地区全域のサロン会事業の一環とする。
・留意点	なるべくボランティアグループの劇団に依頼

年度 活動名	28年度 (1年目)	29年度 (2年目)	30年度 (3年目)	31年度 (4年目)	32年度 (5年目)
観劇会の 開 催	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年

第2次（平成28年度～平成32年度）赤崎地区社協小地域福祉活動計画書（案）

なにを（課題）	【新規】市社協の地域福祉活動計画の方針に沿った計画書の策定
なぜ（原因、理由）	市社協の地域福祉活動計画書の取り組み方針に合わせる
活動タイトル	事業項目⑤-① 第2次赤崎地区小地域福祉活動計画の策定
誰のために（対象）	地域内の人たち
誰が（活動主体）	赤崎地区社協
どのように ・活動方法	赤崎地区小地域ケア会議にて地域福祉全般に亘る問題点を洗い出し、その原因と対策を明確にし、計画的な解決策を実行する
・活動頻度	事業ごとに活動日程を決め実施する
・場 所	地域内全般
・費 用	なし
・決めごと	地域内の意見を広く求め、実情を反映した事業計画を策定する。
・留意点	計画(Plan)、実行(Do)、点検(Check)、見直し(Action)の管理サイクルをしっかりと回し、最善の状態を保つ。

年度 活動名	28年度 (1年目)	29年度 (2年目)	30年度 (3年目)	31年度 (4年目)	32年度 (5年目)
第2次赤崎地区 小地域福祉活 動計画の策定	第2次計画書に沿って年度計画書を作成 (PDCA管理サイクル)	第2次計画書に沿って年度計画書を作成 (PDCA管理サイクル)	第2次計画書に沿って年度計画書を作成 (PDCA管理サイクル)	第2次計画書に沿って年度計画書を作成 (PDCA管理サイクル)	第2次計画書に沿って年度計画書を作成 (PDCA管理サイクル)

第2次（平成28年度～平成32年度）赤崎地区社協小地域福祉活動計画書（案）

なにを（課題）	【継続】地域内で認知症の人が増加している。
なぜ（原因、理由）	高齢化、核家族化
活動タイトル	事業項目⑧-① 家族介護者教室 *認知症サポーター養成講座
誰のために（対象）	自分や家族の為に
誰が（活動主体）	地域の人全員（赤崎地区社協）
どのように ・活動方法	*認知症予防講座を開催 *認知症サポーター講座の開催
・活動頻度	1～2回/年
・場 所	児島公民館赤崎分館
・費 用	なし
・決めごと	参加者を勧誘する。
・留意点	反響をリサーチする（アンケートetc）

年度 活動名	28年度 (1年目)	29年度 (2年目)	30年度 (3年目)	31年度 (4年目)	32年度 (5年目)
*認知症予防 講座 *認知症サポ ーター養成	1回/年	1回/年	2回/年	2回/年	2回/年
評価の為→（受講者数を確認）					

第2次（平成28年度～平成32年度）赤崎地区社協小地域福祉活動計画書（案）

なにを（課題）	【新規】高齢者や身体障がい者で移動手段に困っている人が多い
なぜ（原因、理由）	移動を手伝ってくれる人が近くにいない
活動タイトル	事業項目⑨-① 独居高齢者や障がい者の移動応援の仕組みづくり
誰のために（対象）	自分で移動が困難な高齢者や障がい者
誰が（活動主体）	赤崎地区社協、小地域ケア会議(赤崎竜王ふくし会)、各町内会・自治会、NPO事業団、（移動応援業者）、
どのように	
・活動方法	平成28年度は地域内での実態調査し、実際のニーズがどれ位なのかを把握する。 調査結果を踏まえて応援仕組みづくりするかどうか判断する。
・活動頻度	上記活動方法の検討結果を踏まえ決める。
・場 所	児島公民館赤崎分館、町内会・自治会の集会場
・費 用	活動計画が明確になった時点で決める。
・決めごと	現状の把握を重視し、実態に合わせた活動にする。
・留意点	移動応援を期待している人がどれ位いるのかをまず知る。

年度 活動名	28年度 (1年目)	29年度 (2年目)	30年度 (3年目)	31年度 (4年目)	32年度 (5年目)
独居高齢者や障がい者の移動応援の仕組みづくり	移動応援を期待している人の実態調査	調査結果を踏まえて応援仕組みづくりするかどうか判断する			

第2次（平成28年度～平成32年度）赤崎地区社協小地域福祉活動計画書（案）

なにを（課題）	【新規】高齢者や身体障がい者が買い物をする時に お店が遠いので困っている人が多い
なぜ（原因、理由）	買い物を手伝ってくれる人が近くにいない
活動タイトル	事業項目⑨-② 普段外出が難しい高齢者や障がい者 用の移動スーパーの仕組みづくり
誰のために（対象）	自分で遠くのお店まで行くのが困難な高齢者や障がい者
誰が（活動主体）	赤崎地区社協、小地域ケア会議(赤崎竜王ふくし会)、 各町内会・自治会、NPO事業団、（移動スーパー業者）、
どのように ・活動方法	平成28年度は地域内での実態調査し、実際のニーズ がどれ位なのかを把握する。 調査結果を踏まえて応援仕組みづくりするかどうか判 断する。
・活動頻度	上記活動方法の検討結果を踏まえ決める。
・場 所	児島公民館赤崎分館、町内会・自治会の集会場
・費 用	活動計画が明確になった時点で決める。
・決めごと	現状の把握を重視し、実態に合わせた活動にする。
・留意点	移動スーパーを期待している人がどれ位いるのかをま ず知る。

年度 活動名	28年度 (1年目)	29年度 (2年目)	30年度 (3年目)	31年度 (4年目)	32年度 (5年目)
普段外出が難 しい高齢者や 障がい者用の 移動スーパー の仕組みづく り	移動スーパー を期待してい る人の実態調 査	調査結果を踏 まえて応援仕 組みづくりす るかどうか判 断する			

第2次（平成28年度～平成32年度）赤崎地区社協小地域福祉活動計画書（案）

なにを（課題）	【継続】地域の防災意識が低い。
なぜ（原因、理由）	*災害の経験が少ない。 *他人事と思っている。
活動タイトル	事業項目⑩-④ 自主防災組織の設立
誰のために（対象）	地域住民、ひいては自分の為
誰が（活動主体）	自治会、町内会単位
どのように ・活動方法	*危機管理室より自主防災組織設立の手順を知る *設立後は防災に必要な機器類申請する *避難誘導等の必要訓練を実施する *危機管理に関する研修会に積極的参加する
・活動頻度	*避難誘導等の必要訓練；1～2回/年 *危機管理に関する研修会；必要に応じ可能な限り参加
・場 所	*避難誘導訓練；各町内会、自治会単位で実施 *危機管理に関する研修会；児島公民館赤崎分館
・費 用	20,000円程度
・決めごと	大災害到来を前提とした取り組みとする。
・留意点	自助、共助の意識の高揚

年度 活動名	28年度 (1年目)	29年度 (2年目)	30年度 (3年目)	31年度 (4年目)	32年度 (5年目)
自主防災組織の設立	3町内会・自治会	6町内会・自治会	6町内会・自治会	6町内会・自治会	6町内会・自治会
避難誘導訓練 etc の実施（9月1日）					

第2次赤崎地区小地域福祉活動計画(1/3)

《事業区分》年事⇒年間事業、メニュー⇒メニュー事業

事業項目	事業区分	参加者数	事業内容	日				平成32年度
				平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
●三世交代流事業								
① ラジオ体操の普及	年事	誰でも!	* 健康寿命をのばす為の体づくりの補助としてラジオ体操を普及する	* 愛好会サークルづくり * ラジオ体操の普及活動	* 愛好会サークルづくり * ラジオ体操の普及活動	* 愛好会サークルづくり * ラジオ体操の普及活動	* 愛好会サークルづくり * ラジオ体操の普及活動	
② あるこうかい(ウォーキング会)	年事	100名	* 赤崎地区歩行マップを利用した健康ウォーキング * 実施することにより、郷土の良さを再発見	* 9月下旬～10月	* 9月下旬～10月	* 9月下旬～10月	* 9月下旬～10月	
③ グラウンドゴルフ大会	メニュー	50名～80名	* 世代間の理解を深める為のスポーツ大会 * 三世一人づつ3名でチーム編成し、敵チームの対抗戦競技	* 10月～11月	* 10月～11月	* 10月～11月	* 10月～11月	
④ お飾りづくり	年事	120名	* 三世交代流お飾りづくりで日本文化を伝承	* 12月中旬(赤崎小学校授業日時に合せ)	* 12月中旬(赤崎小学校授業日時に合せ)	* 12月中旬(赤崎小学校授業日時に合せ)	* 12月中旬(赤崎小学校授業日時に合せ)	
⑤ もちつき大会	メニュー	200名	地域の人々との絆を深め子ども達の生きる力を育む	* 12月中旬(赤崎小学校PTAの行事日時に合せ)	* 12月中旬(赤崎小学校PTAの行事日時に合せ)	* 12月中旬(赤崎小学校PTAの行事日時に合せ)	* 12月中旬(赤崎小学校PTAの行事日時に合せ)	
●サロン活動推進事業								
① サロンの定期開催	メニュー	10名前後/サロン会場	住民が情報交換できる場づくりをする * 高齢者、障がい者を対象としたサロン開設およびその推進継続	* 誰でも参加出来るサロンの開設と発展維持	* 誰でも参加出来るサロンの開設と発展維持	* 誰でも参加出来るサロンの開設と発展維持	* 誰でも参加出来るサロンの開設と発展維持	
② 子育て支援サロンの開設	メニュー	10名前後/サロン会場	* 子育て中の親御さんたちが情報交換できる場づくりをする * サロンとして定期的開催とする	* 子育て支援に関する現状把握の為の調査 * 子育て支援サロン開設準備	* 子育て支援サロン開設 * 支援活動開始	* 支援活動	* 支援活動	
③ 親劇会の開催	年事	30名～60名	* ボランティアグループによる親劇会の開催 * 家にこもりがちな人を勧誘	* 年1回～2回開催	* 年1回～2回開催	* 年1回～2回開催	* 年1回～2回開催	
●子育て支援事業								
① 夏休み親子料理教室	メニュー	20名	* 親子の食育を通して食の大切さとフランスの取れた食事メニューを教える * 料理を親と子で一緒に作って、親子の絆を深める	* 8月(赤崎小学校夏休み期間)	* 8月(赤崎小学校夏休み期間)	* 8月(赤崎小学校夏休み期間)	* 8月(赤崎小学校夏休み期間)	
② 子育ての集い(クリスマス会)	年事	20名	* 幼稚園に上がる前の幼児を中心とした子育て支援活動	* 12月(クリスマス時期)	* 12月(クリスマス時期)	* 12月(クリスマス時期)	* 12月(クリスマス時期)	

互いに助け合い、支え合う地域づくり

第2次赤崎地区小地域福祉活動計画(2/3)

《事業区分》年専 ⇒ 年間事業、メニュー ⇒ メニュー事業

事業項目	事業区分	事業内容	日程			
			平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
地区社会福祉協議会活動の促進						
●地区社協広報活動の充実						
① 広報紙『赤崎社協だより』発行配布	赤崎小学校 校区内全戸	* 地区社協の活動内容を地域の人々に広く知って頂くために広報紙を発行	* 7月初旬発行(総会後)	* 7月初旬発行(総会後)	* 7月初旬発行(総会後)	* 7月初旬発行(総会後)
●小地域福祉活動計画の策定						
① 第2次赤崎地区小地域福祉活動計画策定	メニュー 赤崎地区	* 赤崎地区小地域ケア会議(赤崎大王ふくし会)でのグループ討議で計画書を作成しPDCA管理サイクルを回しながら実行する	* 第2次計画書に沿って年度計画を作成(PDCA管理サイクル)	* 第2次計画書に沿って年度計画を作成(PDCA管理サイクル)	* 第2次計画書に沿って年度計画を作成(PDCA管理サイクル)	* 第2次計画書に沿って年度計画を作成(PDCA管理サイクル)
●地区社協合同連絡会に参加						
① 全児島地区の地区社協合同連絡会に参加	年専 児島支所	* 全児島地区地区社協合同連絡会で情報交換	* 連絡会に出席	* 連絡会に出席	* 連絡会に出席	* 連絡会に出席
●福祉講演会の開催						
① 福祉講演会の開催	メニュー 児島公民館赤崎分館	地区の福祉課題について講演会を開催	* 地域住民の希望に沿ったテーマの講演会を開催 * 1月～3月に開催	* 地域住民の希望に沿ったテーマの講演会を開催 * 1月～3月に開催	* 地域住民の希望に沿ったテーマの講演会を開催 * 1月～3月に開催	* 地域住民の希望に沿ったテーマの講演会を開催 * 1月～3月に開催
●出前福祉講座の開催						
① 家族介護者教室開催	メニュー 年度毎に地域巡回開催	* 認知症サポートセンター養成講座を実施し、少しでも多くの住民に認知症への理解を深めてもらう	* 年1回開催 * 開催会場は町内会・自治会希望に合わせる	* 年1回開催 * 開催会場は町内会・自治会希望に合わせる	* 年1回開催 * 開催会場は町内会・自治会希望に合わせる	* 年1回開催 * 開催会場は町内会・自治会希望に合わせる
② 転倒骨折予防教室	メニュー 年度毎に地域巡回開催	* 1セット3回シリーズで転倒防止の為の体力測定や体操を中心とした講習	* 年1セット開催 * 開催会場は町内会・自治会希望に合わせる	* 年1セット開催 * 開催会場は町内会・自治会希望に合わせる	* 年1セット開催 * 開催会場は町内会・自治会希望に合わせる	* 年1セット開催 * 開催会場は町内会・自治会希望に合わせる
③ 男性高齢者料理教室	メニュー 児島公民館赤崎分館	* 簡単な家庭料理の作り方を教える * 料理を作ることの楽しさを味わってもらう	* 10月に第1回目開催 * 2月に第2回目開催	* 10月に第1回目開催 * 2月に第2回目開催	* 10月に第1回目開催 * 2月に第2回目開催	* 10月に第1回目開催 * 2月に第2回目開催

互いに助け合い、支え合う地域づくり

第2次赤崎地区小地域福祉活動計画(3/3)

《事業区分》年事 ⇒ 年間事業、ミニ ⇒ ミニ事業

事業項目	事業区分	参加者数	事業内容	日 程				
				平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
●生活支援サービスの充実								
多様な福祉サービスの基盤整備 誰もが安心して福祉サービスを受けられる地域づくり	① 独居高齢者や障がい者の移動支援の仕組みづくり	不定人員	* 歩いたり動くことの難しい高齢者や身体障がい者の移動手段の確保	* 調査結果を踏まえて移動支援仕組みづくりをするかどうかを判断する	* 前年の判断により取組み手段を決める	* 前年の判断により取組み手段を決める	* 前年の判断により取組み手段を決める	
	② 普段外出が難しい高齢者や身体障がい者用の移動スーパールの仕組みづくり	不定人員	* 近くにスーパーなどのお店がなく買い物に不便に出られない高齢者や身体障がい者のための移動スーパールの誘致	* 調査結果を踏まえて移動スーパールの仕組みづくりをするかどうかを判断する	* 前年の判断により取組み手段を決める	* 前年の判断により取組み手段を決める	* 前年の判断により取組み手段を決める	
	③ みまもり支援の仕組みづくり	赤崎小学校区全域 約100名	* 手助けが必要な独居住民、障がい者、DV家庭を近所の人連で見守る * その対応法をマニュアル化し、連絡網を完備	* 命のハートン再配布および記録事項の確認 * みまもり実態調査 * みまもりマップの更新	* 命のハートン再配布および記録事項の確認 * みまもり実態調査 * みまもりマップの更新	* 命のハートン再配布および記録事項の確認 * みまもり実態調査 * みまもりマップの更新	* 命のハートン再配布および記録事項の確認 * みまもり実態調査 * みまもりマップの更新	* 命のハートン再配布および記録事項の確認 * みまもり実態調査 * みまもりマップの更新
	④ 独居高齢者や高齢者世帯への友愛訪問	赤崎小学校区全域 250名	* 70歳以上の独居高齢者宅を訪問し、安否を確認する * 誰もが好きな手づくりお菓子“岡山ちらし寿司”を全員に配る	* 1月に実施	* 1月に実施	* 1月に実施	* 1月に実施	* 1月に実施
●地区社協防犯・防災活動の推進								
地域防犯・防災力の強化 地域で安心して暮らすための基盤づくり	① 防犯パトロール	子ども連の通学路 30名/日	* 子ども連の登下校の見守り * 学区内の安全パトロール * 不審者の撃退	赤崎小学校区 毎日の登校時間	赤崎小学校区 毎日の登校時間	赤崎小学校区 毎日の登校時間	赤崎小学校区 毎日の登校時間	
	② 防火パトロール	赤崎小学校区内 50名	* 消防団による防火週間パトロール * 消防団と子ども会合同の年末防火パトロール	* 防火週間週 * 12月下旬の夕方	* 防火週間週 * 12月下旬の夕方	* 防火週間週 * 12月下旬の夕方	* 防火週間週 * 12月下旬の夕方	
	③ 高齢者交通安全啓発活動	赤崎小学校区 在住65歳以上 全高齢者	* 高齢者交通安全講習会開催 * 自転車教室の開催 * 交通安全ふれあいの愛の体議会 * 65歳以上高齢者宅を個別訪問して交通安全啓発 * (駅前4丁目町内会、阿津町内会、赤崎町内会連合会はH27年度で実施済)	* 適宜開催 * 春・秋各1回 * 春・秋各1回 * 苜池2丁目:1月~3月中 中防:4月~7月 苜池:8月~12月	* 改めて活動内容を関係機関と検討して決める	* 改めて活動内容を関係機関と検討して決める	* 改めて活動内容を関係機関と検討して決める	* 改めて活動内容を関係機関と検討して決める
	④ 自主防災組織の設立	赤崎小学校区内 全住民	* 危機管理室より自主防災組織の設立について教授 * 避難訓練等の必要訓練を実施する * 危機管理に関する研修会に積極的に参加する	* 3町内会・自治会	* 6町内会・自治会	* 6町内会・自治会	* 6町内会・自治会	* 6町内会・自治会
				避難誘導訓練 etc の実施(出来れば9月1日に実施したい)				